

2022年2月期 第3四半期決算発表補足資料

イオンディライト株式会社

2022年1月12日

1 2021年度 第3四半期決算報告

2 2021年度 第4四半期の取り組み

連結損益計算書

増収増益、2019年度同期比でも増収

新型コロナの営業利益影響▲4億円：当第3四半期連結会計期間（2021年9月1日～11月30日）、国内感染者数減少に伴いアルコール消毒清掃の受注が減少、加えて、建設施工における一部工事の遅れや自動販売機事業における消費者の購買行動変化に伴う中身飲料売上の減少傾向が継続

	2020年度 第3四半期（構成比）		2021年度 第3四半期（構成比）		増減額	増減率	（億円） 2019年度 同期比
売上高	2,243	（100.0%）	2,407	（100.0%）	163	107.3%	103.5%
売上総利益	275	（12.3%）	298	（12.4%）	22	108.2%	102.8%
販売管理費	163	（7.3%）	179	（7.4%）	16	110.0%	106.3%
営業利益	112	（5.0%）	118	（4.9%）	6	105.7%	97.9%
経常利益	112	（5.0%）	119	（4.9%）	6	106.2%	98.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	63	（2.8%）	84	（3.5%）	21	134.3%	115.3%

セグメント売上高

全7事業で増収。2019年度比では自動販売機、サポートを除く5事業で増収

	2020年度 第3四半期	2021年度 第3四半期	増減率	2019年度 同期比 (億円)
設備管理	438	464	106.0%	105.0%
警備	329	354	107.5%	106.4%
清掃	460	504	109.5%	108.5%
建設施工	310	336	108.6%	105.2%
資材関連	396	427	107.9%	110.9%
自動販売機	190	197	103.8%	83.3%
サポート	117	120	102.6%	85.1%
合計	2,243	2,407	107.3%	103.5%

セグメント損益

売上拡大に伴い4事業で増益。

建設施工は一部工事の遅れ、自動販売機は中身飲料売上減が影響

	2020年度 第3四半期	2021年度 第3四半期	増減率	2019年度 同期比 (億円)
設備管理	39.1	40.3	103.1%	100.0%
警備	23.8	25.9	108.8%	117.6%
清掃	53.4	61.7	115.6%	116.6%
建設施工	28.7	28.6	99.4%	100.6%
資材関連	18.5	19.3	104.4%	99.3%
自動販売機	5.6	4.1	73.6%	43.7%
サポート	▲1.7	3.3	-	74.9%
合計	167.6	183.4	109.4%	103.5%

連結貸借対照表

(億円)

資産の部	2021/2	2021/11	増減額	負債・純資産の部	2021/2	2021/11	増減額
流動資産	1,100	1,177	77	流動負債	441	447	6
有形固定資産	94	83	▲11	固定負債	41	36	▲5
無形固定資産	55	54	▲1	負債合計	482	483	1
投資等	115	98	▲17	株主資本	866	907	40
固定資産	265	235	▲29	純資産合計	882	929	46
資産合計	1,365	1,413	47	負債・純資産合計	1,365	1,413	47

マーケットシェア拡大に向け 業種別ソリューションの開発と提案を積極的に推進

お客さまの声を起点とした「マーケットイン」を実践

- アカウントマネジャーが顧客情報を集約。顧客や各業界への理解を促進
- カスタマーサポートセンターで施設の情報を集約
(導入設備、設備の故障履歴・劣化情報、修繕計画など)

▶ 集約した情報を分析し、業種別ソリューションの開発を推進

「人の技術」と「テクノロジー」を融合した新たな施設管理モデル 「エリア管理」の展開を推進



全国に設置したカスタマーサポートセンター（CSC）による遠隔サポートや各種センサー、カメラの活用により

累計**133**の施設で省人化を実現

累計**114**名の専門人材を新規受託物件や営業、工事部門に再配置

● 東北支社CSC

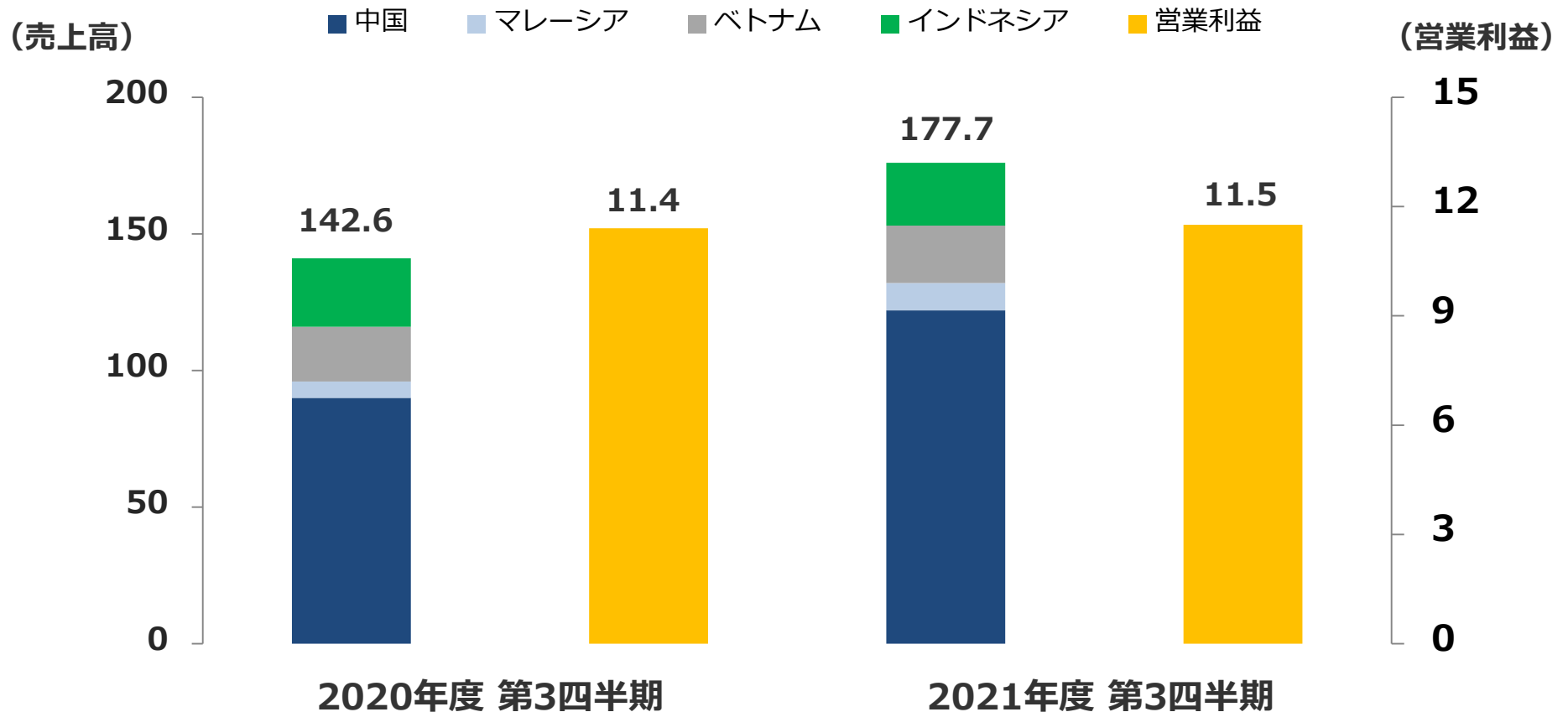
常駐型個別管理から巡回を主体に複数の施設をエリアで管理する「**エリア管理**」へ
人手不足の中、「**安全・安心**」を担うリソースを確保

2021年度 第3四半期の主な取り組み ③グループ経営（アジアでの事業拡大）

中国では堅調に事業を拡大。アセアンでは各国で新型コロナ対策による厳しい経営環境が続く中、地域社会にとってのインフラである施設を支えるため、各種サービスの提供を継続

海外事業は売上高 前年同期比124.5%、営業利益 前年同期比101.2%*

海外事業売上高／営業利益推移（億円）



※ 数値は事業会社の単純合算ベース

パートナー企業各社と共に施設管理の専門家集団へ 「第3回イオンディライト技術コンテスト」を開催

【各コンテストの様相】



(写真左から) 「設備事業の部」 「清掃事業の部」 「警備事業の部」

国内外グループ各社やパートナー企業各社（清掃・警備）のメンバーらが互いの技術や取り組み成果、好事例を競技、披露しました。

技術力×人間力 = 専門性

1 2021年度 第3四半期決算報告

2 2021年度 第4四半期の取り組み

2021年度の計画数値に対する進捗

(億円)	2021年度第3四半期実績 (構成比)	2021年度予想 (構成比)	進捗率
売上高	2,407 (100.0%)	3,250 (100.0%)	74.1%
営業利益	118 (4.9%)	165 (5.2%)	71.5%
経常利益	119 (4.9%)	165 (5.2%)	72.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	84 (3.5%)	105 (3.2%)	80.0%

※新型コロナ、旧カジタクによる2021年度 営業利益への影響見込み

- ・新型コロナ▲5億円 (2020年度▲15億円)
- ・旧カジタク▲3億円 (2020年度▲10億円)

課題

対策

売上高の拡大

●イオングループ外のシェア拡大

- ・上期より既に成果を出し始めたアカウント営業により既存顧客内シェアを拡大
- ・業種別営業の強化により新規顧客開拓を促進

●建設施工事業

- ・営業強化、工事の仕様／工程の最適化を通じて受託確度を向上し、改装工事の受託を拡大

●資材関連事業

- ・イオングループが扱う資材を包括的に提供するトップサプライヤーを目指し、営業を強化

収益性の改善

課題

対策

●ビルメンテナンス事業部門

（設備管理事業）

- ・エリア管理化とCSC活用による設備員の生産性向上
- ・委託先集約による外注費見直し

（警備事業）

- ・システム導入による省人化や価格交渉を通じた単価適正化を継続

（清掃事業）

- ・経済圏形成に向けたパートナー企業との連携強化

●スタッフ部門

- ・本社のスリム化とテレワークやリモート会議など、新しい働き方の促進により生産性を向上

(参考) 中期経営計画 KPI (重要業績評価指標) 進捗

KPI のモニタリングにより重要施策を着実に推進

基本方針	KPI (2023年度末)	2021年度第3四半期進捗	2020年度期末
お客さま 起点の経営	売上高イオングループ内外比率 60% : 40%	65.1% : 34.9%	64.3% : 35.7%
DXの推進	営業利益率6.0%、営業利益率向上を 通じたROE12%水準(通期)の維持	営業利益率4.9% ROE —※	営業利益率5.1% ROE 14.1%
	エリア管理導入施設数360施設	133 施設	—
	エリア管理による常駐ポスト削減数180名	114 名	—
	機能集約による本社スタッフ20%の 直接部門への再配置	—※	—
グループ 経営	国内グループ会社 通期売上高650億円	—※	528億円
	海外売上高比率8%超	7.4%	6.7%
	国内グループ財務経理部門の シェアードサービス化(通期)	—※	—

青字表記は改善項目

※一部指標に関しては通期で更新

ご意見・ご質問につきましては、下記にお願いいたします。

- この資料には、イオンディライトの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
これらの記述は、過去の事実だけではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定に基づく見込みです。そのため、実際の業績は見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。
- 資料中、特に注記がない場合を除き下記の方法により記載しております。
 - ◇ 全て連結を対象として記載
 - ◇ 記載金額は億円未満を切り捨て
※p.5,9 のみ千万円未満を切り捨て
 - ◇ 比率は小数点第2位を四捨五入

イオンディライト株式会社
(証券コード：9787)

IR担当部署：社長室 広報・IRグループ
TEL 03-6895-3892
又は、ホームページよりお問い合わせください。
<https://www.aeondelight.co.jp>

本資料の内容につきましては公表日（2022年1月12日）までに入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により業績予測につきましては、変更する場合がございます。